

地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH, PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<http://www.sgepss.org/sgepss/>

第 203 号 会 報 2010 年 5 月 10 日

目	次
第 25 期第 5 回運営委員会報告 1	波動分科会活動報告 羽田 亨 8
第 127 回総会開催の御案内 4	平成 21 年度 Conductivity Anomaly 研究会 活動報告 大志万 直人 8
3 学会合同プラズマ宇宙物理セッションの 御案内 5	アウトリーチ部会活動報告 長妻 努 9
2010 年秋学会特別セッションの募集 5	国際学術交流事業補助金受領の報告 亀田 真吾 9
国際標準電離層委員会開催報告 渡部重十 6	会費納入についてのお知らせ 10
"2010 Kochi International Workshop on Paleo-, Rock and Environmental Magnetism - Asian Monsoon and Global Climate Change" 開催報告 小玉 一人, 山本 裕二 6	国際学術研究集会等への補助について 10
	学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール 11
	SGEPSS カレンダー 11
	賛助会員リスト 12

第 25 期第 5 回運営委員会報告

日時：2010 年 3 月 23 日（火）
11:30～12:50, 13:30～17:00
場所：京都大学生存圏研究所 総合研究実験棟
CB316 号室、HW525 号室

出席者 17 名（定足数 11 名）：津田敏隆会長、
家森俊彦副会長、阿部琢美、石井守（リモー
ト）、小田啓邦、河野英昭、齋藤昭則、坂野
井和代、塩川和夫、篠原育、堤雅基、長妻努、
畠山唯達、村田功、山本衛、吉川一朗、清水
久芳

欠席者 1 名：木戸ゆかり

議事

1. 前回（第 25 期第 4 回運営委員会）議事録の
確認

・確認の後、承認された。

2. 協賛・共催関係（山本）

・衛星設計コンテストの審査委員選出の依頼が
あり、委員を選出したことが報告された（「9.
アウトリーチ活動」参照）。

・ IAGA 2013 候補地（インド、メキシコ）と、
開催地選出プロセスが紹介された。開催地は、
各国一票の投票を行い、決定される。投票先は、
IAGA 小委員会にて決定する。

3. 入退会審査（清水）

(1) 入会 3 名申請があり、全員入会が承認さ
れた。

・入会者 3 名：

正会員（一般）：森川靖大（所属：情報通信研究
機構、紹介会員：村田健史・坪内健）

正会員（学生）：廣岡伸治（千葉大学、服部克己・
中西正男）、陳佳宏（京都大学、町田忍・家森
俊彦）

(2) 退会 9 名の申請があり、全員の退会が承
認された。

・退会者 9 名 高橋八郎、和田淳、徳永直樹、
藤田裕一、安原文彦、岡田昭明、中島英彰、

鈴木勝久、公田浩子

(3) シニア会員 6名の申請があり、全員のシニア会員への移行が承認された。

シニア会員(6名) 三浦保範、西田泰典、森弘隆、田中良和、五家建夫、永野宏

4. 会計関係(阿部・村田)

- 平成21年度の会費納入状況について、資料をもとに説明された。滞納分納入まで含めると、当初の想定通りの納入率であった。
- 会費請求通知は、各年度に2回行う。(1度目は通常の請求通知、2度目は督促。)
- 平成22年度の会費請求スケジュールを確認した。また、連合大会会場にて会費納入が可能であることが周知された。
- 長期滞納会員のリストが提示され、今後の対応が検討された。
 - 3年以上滞納者が除籍勧告対象者であることが確認された。
 - 4年以上滞納30名(うち10名に対しては、2007年3月、2008年3月に除籍勧告通知済)、3年滞納14名、2年滞納11名。
- 議論の結果、除籍対象の長期滞納者に、会費納入の意思があるか再度確認することとした。除籍勧告通知済みの10名のうち7名については除籍し、3名については会員を継続する意思があるかどうかの確認を運営委員から行うこととした。
- 本年3月の時点で3年間会費未納の会員には、除籍勧告を行うことが確認された。

5. 名誉会員および長谷川・永田賞について(津田・石井)

5-1. 名誉会員の推挙について

- 名誉会員推挙手順について確認を行った。
- 2名の推挙候補者について、議論を行った。議論は次回運営委員会でも行う。

5-2. 長谷川・永田賞候補者について

- 長谷川・永田賞候補者の推薦手順について確認された。
- 1名の推薦候補者が挙げられた。推薦書類をもとに、候補者の推薦可否について、長谷川・永田賞推薦者選考委員会で議論を行う。

6. 助成関係

6-1 若手国際派遣について(吉川・阿部)

- 3月17日に開催された臨時運営委員会(TV会議)において、2名の申請が採択されたことが報告された。また、2名のうち、1名が辞退した。
- 採択:越田友則会員(所属:電気通信大学、派遣先:EGU、ウィーン)
- 1名の辞退の理由は申請者が他の派遣費助成に申請し採択されたことであるが、運営委員会での採択決定時期が遅かったのも原因の1つであり、今後の若手国際派遣申請審議時期を早めるべきであるという意見が出された。今後の募集時期(対象期間との対応)と審議時期にこの意見を反映することとした。
- 平成22年度の若手国際派遣の補助内容について議論を行い、以下の通り決定した。
 - 派遣補助は全額補助を基本とする。これには、予稿投稿料、学会参加登録料、滞在費も含む。
 - 全額補助に伴い、学会から採択者への支払い方法を清算払いとすることとした。採択者の負担を軽くするため、学会前に概算で支払い、学会後に最終的な清算をすることとした。
- 科研費等、他の資金を持っている申請者が本申請に申請する場合は、なぜ本助成が必要な理由の記述をすることとした。また、これに合わせて申請書様式を変更することとした。
- 平成22年度募集スケジュールについて、資料をもとに議論した。
 - これまでと同様に4タームに分けて募集することとした。
 - 募集締切後、速やかに審議をすべきだという意見があった。また、学会開催時期に対して応募時期をこれまでよりも早い時期に設定するべきであるという意見があった。
 - 上記意見について議論し、運営委員会開催時期にあわせて応募締切を設定することとした。このため、現段階で締切が決定しているのは、第1回目の締切(5月14日)のみ。また、申請時期を早めることとした。
 - 定例の運営委員会が締切直後に開催できない場合は、TV会議を含めた臨時運営委員会を開催し、審議をする。
- 本助成への申請は、メールによる電子申請のみでも可とすることとした。(これまでは押印

済の紙書類も提出。)

- ・「辞退する場合は早急に知らせること」という旨の文を申請書受領メールで申請者に周知することとした。

6-2 山田科学振興財団助成の審査 (山本)

- ・4件の申請があった。事前に書類審査を行った運営委員が、各申請についての意見を公表した。
- ・審議の結果、以下2件の申請を、本学会から山田科学振興財団へ推薦することとした。
 - 陰山 聡 (神戸大学): 磁力線追跡機能を組み込んだ地球ダイナモシミュレーション
 - 北 和之 (茨城大学): 音響光学法による大気黒色炭素エアロゾルの放射吸収と被覆・混合による増幅効果の解明。

7. 秋学会 (第128回総会および講演会) 関係

7-1. 秋学会日程と会場について (長妻)

- ・次回秋学会の開催会場と日程が報告された。
 - 会場: 沖縄県市町村自治会館研修施設 (那覇市旭町)
 - 開催日程: 2010年10月31日~11月3日
- ・会場施設について紹介された。会場の都合により、3パラレルセッションでプログラム編成を行う予定であることが報告された。また、4会場が不可避な場合には、ホールを分割することが可能であることが紹介された。
- ・保育室設置とポスター会場について、引き続き検討をすることとした。
- ・LOCの体制が報告された。
- ・秋学会時のアウトリーチイベントを、10月30日に久茂地公民館 (那覇市久茂地) で行うことが報告された。

7-2. 秋学会までのスケジュールについて (篠原)

- ・秋学会までのスケジュール案の検討結果が報告された。昨年と比べて、開催時期は一か月ほど遅いが、昨年と二週間ずらしたスケジュールを基本とする案が了承された。
- ・重要な日程は以下のとおり。
 - 5月21日 特別セッション募集締め切り
 - 6月28日 投稿受付開始
 - 7月30日 投稿締切
 - 8月3日 投稿締切予備日

8月10日 コマ割り決定

8月24日 プログラム編成作業完了

10月13日 冊子体プログラム送付

10月31日~ 秋学会開催

7-3. 秋学会投稿システムについて (山本)

- ・JpGUと交渉の末、投稿システムの使用許可を得たことが報告された。
- ・投稿システムの管理者 JCOMであり、投稿システム使用の為には費用がかかることが報告された。平成22年度はJpGU投稿システムが変更された直後であり、このシステムを本学会用に改変する必要があるため、例年よりも高額な費用がかかる見込み。正式な見積もりは4月にされる予定。
- ・見積もり額によっては、平成22年度の本学会予算の見直しが必要となる。この場合、連合大会時の総会において、予算組み替え承認の議決をする必要がある。
- ・他学会の投稿システムの利用と使用料金低下の見込みについて議論された。

8. 分科会について (山本・河野)

- ・分科会に関する内規をもとに、分科会幹事は運営委員会に対して、毎年1度活動報告を行う必要があることが確認された。
- ・分科会報告の会報掲載状況が河野委員から報告され、過去3年以上記事掲載のない分科会が3つあることが紹介された。また、この3分科会の最近の活動状況について、関係する委員が説明を行った。今後、分科会の継続・名称変更・解散等の意思を、関係する委員から幹事に確認することとした。
- ・分科会を解散する場合には総括が必要であるという意見があった。

9. アウトリーチ活動について (長妻・畠山)

- ・衛星設計コンテストの審査員選出の依頼があり、國分征会員を本学会から選出した。
- ・JSTプログラム「地域ネットワーク支援」が紹介された。

10. 男女共同参画関係について (長妻)

- ・学協会連絡会シンポジウムが10月7日に東工大において開催されたことが報告された。本学会担当者からは、ポスドク任期制雇用につ

いての話題提供があった。

- ・将来設計支援に関する要望と科学技術分野の男女共同参画に関する要望についての提言をまとめ、11月13日に学協会連絡会から内閣府へ提出された事が報告された。
- ・平成21年秋学会の保育室・託児室を、2家族4名が利用したことが報告された。

1 1. Web・メーリングリスト関係 (堤)

- ・これまでの活動状況が報告された。英語ページについては、作業を継続する。
- ・sgepsbb メールリストに流れたメールが、Web ページに掲載されるまでの時間が長いという指摘があったことが報告された。これまではマニュアルでメールからWeb ページへの掲載を行っていたが、今後自動化する予定。
- ・sgepsbb に投稿されるメールの文字化けが多く、対応を必要とする。

1 2. 学会創立 60 周年特別事業 (石井・山本)

- ・これまでの経緯と、記念誌残部の今後の取り扱いについて報告された。
 - 12月原稿完成、1月印刷完了、2月3日購入者への送付開始。販売総数は117冊。現在の残部は38部。
 - 残部は本学会が適当部数(15部程度)買い取り、他は関係機関に購入を依頼する。
- ・資料を用いて、財政状況が報告された。経費合計は816,360円、収入合計は614,780円(26冊分未集金)。残部をすべて販売すると、190,000円の収入、11,580円の赤字が残るが、学会予算から支出する予定。
- ・記念誌発行委員会は、今期運営委員の終了前に解散する予定。

1 3. EPS 関係報告 (斎藤)

- ・JpGU の発行予定のジャーナルについて報告された。EPS と JpGU のジャーナルが協調できるように、今後議論を継続する。
- ・JST による JGG の電子化作業が進行中であることが報告された。URL を sgepsall と web で会員に周知する。
- ・会員より、EPS オープンアクセス化への要望意見があったことが報告された。この問題について、EPS 委員会で議論を予定。

1 4. その他

1 4-1. 前回運営委員会以降、これまでに起こった事項の確認 (津田会長)

- ・JpGU の代議員が選出された。代議員中約 1/6 が SGEPS 会員。
- ・事業仕訳に対する意見書を提出した。

1 4-2. 科学技術政策に関する意見募集(山本)

- ・科学技術政策に関する意見募集について紹介された。締切は3月31日。学会からは意見を出さず、意見がある場合には、個人的に要望を提出する。

1 4-3. 運営委員会運用マニュアルについて (石井)

- ・内規等に書かれていない、申し送り事項・覚書の管理に問題があり、運用マニュアルに相当する文書が必要ではないか、という意見が出され、今後検討することとした。

1 5. JpGU 連合大会期間中の運営委員会等

23日(日) 17:00-20:00 運営委員会 203

24日(月) 18:15-20:15 評議員会 201A

26日(水) 12:30-13:30 総会 302

(清水久芳)

第 1 2 7 回総会開催のご案内

第 127 回総会を以下の日時に開催します。

開催日時：5月26日(水) 12:30～13:30

開催場所：幕張メッセ国際会議場3階 302号室(日本地球惑星科学連合2010年大会会場)

議決事項や学会賞授与などの重要な議事がありますので会員の方はぜひご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に同封の委任状を会長宛てに郵送いただくか、運営委員にお渡しください。また、電子メールでの委任状受領ができます。詳細はメーリングリストにてお知らせします。

(山本 衛)

3 学会合同プラズマ宇宙物理 セッションの御案内

日本地球惑星科学連合 2010 年大会期間中の 5 月 23 日(日)～27 日(木)において、物理学会、天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) 合同の「3 学会合同プラズマ宇宙物理セッション」を開催します。プラズマ科学に関連する国内の研究者が議論できる場の提供を目的として、

- (1) 粒子加速・加熱・相対論、
- (2) MHD 現象・構造形成、
- (3) プラズマ・中性粒子相互作用、
- (4) 観測・計測・新技術、
- (5) 乱流・輸送・非線形現象、
- (6) 理論・シミュレーション技法、
- (7) 宇宙天気・太陽風・磁気圏構造

の 7 つのサブセッションと、7 件のチュートリアル講演を設けています。分野の枠をまたぐ、さらなる研究交流を推進することを目指しておりますので、皆さまの積極的なご参加を、どうぞよろしくお願い致します。詳細プログラムは、以下のサイトをご参照ください。

<http://mira.bio.fpu.ac.jp/tadas/wikis/plasmasession/index.php>

セッション世話人：杉山徹 (JAMSTEC)、
中村匡 (福井県立大学)
(杉山徹)

2010 年秋学会特別セッションの 募集

2010 年秋学会 (10 月 31 日 -11 月 3 日) の講演会開催に向けまして、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集致します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。以下の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー：お名前、所属、ご連絡先
2. セッションタイトル
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模 (参加見込人数)

応募先：sgps10fall@sprg.isas.jaxa.jp

締切：2010 年 5 月 21 日 (金)

応募されたご提案は運営委員会で検討し決定

した後、ご周知いたします。多数のご応募をお待ち致しております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡ください。

運営委員会・秋学会担当：篠原育、小田啓邦、
河野英昭、山本衛

「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。「特別セッション」は次のような内容を議論する場として位置づけられています。

- ・レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容 (時機にあった話題、重要テーマなど)
- ・当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。

これまでの特別セッションは以下の通りです。

- ・2004 年秋：「宇宙天気」
- ・2005 年秋：「宇宙進出と STP 科学の接点」
：「SGEPSS における小型衛星の可能性」
- ・2006 年秋：「地上 - 衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて」
：「地球惑星磁気圏探査：将来計画～これからの黄金の 20 年とするために～」
- ・2007 年秋：「STE 研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望」
：「SGEPSS 創立 60 周年記念特別セッション：地球電磁気学の歩み」
- ・2008 年秋：「南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開」
：「地震学と地球電磁気学の境界領域研究」
- ・2009 年秋：「月周回衛星「かぐや」観測による STP 研究の新展開」

以上です。

(篠原育、小田啓邦、河野英昭、山本衛)

国際標準電離層委員会開催報告

渡部重十

国際標準電離層委員会

(宇宙空間研究委員会・電波科学連合共同プロジェクト)

日程・場所：2009年11月2日～11月7日
(鹿児島大学 稲盛会館)

参加者数：113名

国内参加者数 59名：招待講演 17名，学生発表 28名

海外参加者数 54名：招待講演 18名，学生発表 8名

発表論文数：107編 (海外：75編)

プログラム

セッション1：衛星観測，ロケット観測，地上観測による電離層の構造・力学とモデリング (21編)

セッション2：衛星観測，ロケット観測，地上観測による電離層プラズマ不安定の観測とモデリング (17編)

情報通信研究機構 山川電離層観測所視察

セッション3：宇宙天気予報と国際標準電離層モデル，太陽放射変動，太陽風変動，磁気擾乱による電離層の応答 (20編)

学生ポスターセッション (34編)，学生ベストプレゼンテーション4編

セッション4：国際標準電離層モデルへの応用 (15編)

20カ国から113名が参加した今回の国際標準電離層委員会は、約40年前の最初の開催から最大規模の会議となった。特に、日本を除くアジアからの参加者が～30%あり、宇宙科学の研究がアジア地域で活発化していることを示している。

研究発表だけでなく4名の学生発表優秀賞、高校生による研究発表、中学高校での出前授業や鹿児島市科学館での講演などのアウトリーチ、情報通信研究機構山川電波観測所視察、企業からの展示など、予定していたプログラムをすべて終了することができた。日本やアジアの研究活動を広く世界に示し、今後の研究や観測計画について議論できたことは大きな成果である。

アジアの宇宙科学研究をさらに発展させるために、各国が協力して研究を進めるとともに、アジア地域での継続的な研究集会が必要である。

今回の成果をEarth Planet and Spaceに特集号として掲載する。

なお、SGEPSS国際学術交流事業運用内規に基づきSGEPSSから「国際学術研究集会等、広く国際学術交流の推進に役立つ事業への補助」でアジアから2名の研究者を招へいすることができました。ありがとうございます。



“2010 Kochi International Workshop on Paleo-, Rock and Environmental Magnetism - Asian Monsoon and Global Climate Change” 開催報告

高知大学海洋コア総合研究センター
小玉 一人，山本 裕二

2007年および2009年に引き続き、古地磁気・岩石磁気・環境磁気学を主とする地球環境科学分野において、アジアの研究者が主導して行ってきた研究の最新成果を議論することを目的として、2010年2月4～5日にわたり国際ワークショップを開催した。これまでと同じく、会場は高知大学海洋コア総合研究センターである。今回は、とくにアジアモンスーンと大規模気候変動をキーワードとし、これらに関連した研究の基調講演や成果発表に日程の半分を割り当てた。参加者は海外から5名、国内から24名であったが、その国籍は中国が5名、韓国が2名、台

湾が1名、ネパールが1名、ロシアが1名などと多岐にわたり、とくにアジア地域における研究交流を深めるのに有意義な機会となった。うち5名は、当センターと研究協力協定を締結している機関からの招聘者である。

当センターは(独)海洋研究開発機構高知コア研究所と共同運営体制を敷いており、「高知コアセンター」という愛称を使用している。高知コアセンターは統合国際深海掘削計画(IODP)の活動と密接に関わっており、IODPの前身であるDSDPおよびODPの時代にまで遡る掘削コアを保管・管理するためのコアレポジトリーとしての機能を持ち、アメリカのテキサスA&M大学、ドイツのブレーメン大学とともに世界三大コアレポジトリー拠点を構成している。ワークショップ初日は、まず、IODP計画の概要と「高知コアセンター」で行われている試料管理業務などについての紹介が、IODPキュレーター(試料管理責任者)であるLallan P. Gupta博士より行われた。その後、引き続き、昼休みを挟んでアジアモンスーンと大規模気候変動に関する基調講演および個別研究テーマの口頭発表が行われた。基調講演は、国内から長島佳菜博士(海洋研究開発機構)および三上正男博士(気象庁気象研究所)を招き、それぞれ、タクラマカン砂漠とゴビ砂漠を起源とする風成塵放出サイクルの変動などに関する最新の研究成果の紹介、および、風成塵の様々なプロセスやそれらが気候に及ぼす影響などのレビューを行って頂いた。個別研究テーマの発表では、様々な環境磁気パラメーターの探索や、これらを利用した過去の湿潤変動や環境汚染粒子の起源の推定、陸上や海洋・湖の掘削コアの磁気測定に基づく古環境変動に関する議論などの発表が行われた。

初日の昼休みおよび夕方には、1件の展示および7件のポスター発表(コアタイム)が行われた。展示は、岡山理科大の島山唯達博士によるもので、Google Earthを利用した「古地磁気の可視化」に関連するものであった。モバイルプロジェクターを持ち込んでの展示で、ワークショップ参加者のみならず、当センターの一般職員なども興味津々の様子で、可視化された磁力線の時間変動の様子などを熱心に覗き込んでいたのが印象的であった。ポスター発表は、主として国内の大学院生によるもので、その内容は古地磁気・岩石磁気・環境磁気の個別研究テ

マに関するものであった。苦勞しながらも、一生懸命英語で説明をしている姿が目立ち、良い刺激となったのではないと思われる。これらの展示およびポスターは、ワークショップ期間を通じて、口頭発表会場の後ろに設けたスペースに継続的に掲示され、コアタイム時間以外にも度々ポスターの前で活発な議論が行われていた。夜は近隣のホテルに場所を移し、懇親会を開催した。渡邊センター長による挨拶を皮切りに、約2時間ほど交流を深めた。小夏ジュースなどが評判であった。

二日目は、古地磁気・岩石磁気・環境磁気の個別研究テーマに関する8件の口頭発表が行われた。最近注目されている磁性鉱物であるグレイナイト(Fe₃S₄)や日本に分布する広域テフラの岩石磁気特性に関する研究、マンガンクラストの岩石磁気学的研究、伊豆大島火山の磁性岩石学的研究、堆積物に周期的に現れる掘削残留磁化の影響に関する研究、フィリピン海プレートの運動を推定した研究、チベット北部に位置するSuerkuli盆地の磁気層序に関する研究、Iceland Basin地磁気エクスカージョンに関する研究といった内容であった。事前に各講演は15分という内容で依頼をしていたが、講演者がかなり詳細な内容にまで踏み込んだ講演を行ったり、質疑応答が活発に行われたりと、ほとんど全ての講演で時間が超過する結果となった。しかしながら、時間厳守が要求される公式な学会講演会とはまた異なる雰囲気のもと、出席者の交流が真に深まる実のあるワークショップになったのではないと思われる。

<備考>

本シンポジウムのプログラム等は次のホームページに掲載しています。

<http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/seminars/naiyo/100204PmagWS.html>



波動分科会活動報告

羽田 亨

第 16 回 SGEPPS 波動分科会 (第 140 回生存圏シンポジウム)

日時: 2010 年 3 月 8 日 (月) - 9 日 (火)

場所: 九州大学筑紫キャンパス総合研究棟

(C-cube) 303 講義室

概要: 宇宙プラズマ波動が深く関係する学際的研究分野のひとつである「相対論的プラズマ」について、主に天文分野における専門家を講師に招いてシンポジウムを開催した。7 名の講師による各 1.5 時間の講演を通じて、当該分野の基礎的なイントロダクションから最新のトピックまでが詳解され、異分野間交流にふさわしく幅広い観点からのさまざまなレベルの議論が展開された。高エネルギー天体からの種々の放射過程や粒子 (宇宙線) 加速過程、相対論的な各種プラズマ不安定性などの物理が議論されたほか、地上・衛星観測や数値シミュレーション、強光度レーザーを用いた室内実験などの研究手法についての議論も行われた。参加者は 30 名であった。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.esst.kyushu-u.ac.jp/~space/workshop/>

平成 21 年度 Conductivity Anomaly 研究会活動報告

大志万 直人

1. 平成 21 年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

平成 21 年度の Conductivity Anomaly 研究会は、平成 22 年 2 月 16 日 (火) ~ 17 日 (水) の期間に、東京大学地震研究所 2 号館 5 階・第 1 会議室 (ポスター発表会場: 地震研究所 1 号館・2 階ラウンジ) において「地球電磁気観測による地震・火山活動域のイメージングを目指して」と題して開催した。これは、東大地震研究所共同利用研究集会 (2009 W-03) を利用して開催したものである。研究会では、「火山活動域でのイメージング」、「地磁気永年変化、地震発生と電磁気シグナル」、「地震発生域でのイメージン

グ I」、「地震発生域でのイメージング II」、「海底観測」、および「地球電磁気学諸問題」の、全体で計 5 つのセッションの構成であった。発表総数は 2 日間で 46 件 (口頭発表: 28、ポスター発表: 18) であった。参加者数 95 名 (2 日間で延べ 166 名)、内参加学生は 17 名であった。また、以下の 3 氏による招待講演を設けた。

鍵山恒臣 (京大理) 「噴火に至るまでの過程の多様性と比低坑構造」

海野徳仁 (東北大学) 「2008 年岩手・宮城内陸地震の発生機構について」

川崎一朗 (京大防災研) 「地震学から見た地球内部電磁気学」

2. Conductivity Anomaly 研究打ち合わせ会

平成 21 年度は、以下のように研究打ち合わせ会を、5 月の連合大会の期間中、9 月の SGEPPS の秋の総会及び講演会の期間中に、また、平成 22 年 2 月に開催した Conductivity Anomaly 研究会の期間中の 3 回開催し、観測計画等に関する情報交換を行なった。主な報告や議題に関しては第 3 回目のものを基に以下に示す。

第 1 回研究打ち合わせ会: 2009 年 5 月 20 日 (水)

幕張メッセ国際会議場

第 2 回研究打ち合わせ会: 2009 年 9 月 27 日 (日)

金沢大学角間キャンパス

第 3 回研究打ち合わせ会: 2010 年 2 月 17 日 (水)

東京大学地震研究所

■会合

※平成 22 年度 CA 研究会は、京都大学防災研究所で開催予定

※その他、平成 22 年度中の国内学会、研究集会、国際学会等の情報交換

■平成 22 年度観測計画

※地震・火山噴火予知研究計画関連 (概要)

※プロジェクト「歪集中帯」の計画

※神縄・国府津-松田断層帯における重点的調査観測計画

※海での観測・海外での観測予定など

■その他

※CA 分科会 Web site に関して

・1970 年代まで CA 研究会論文集の目次を Web に UP した。

・本文についての Web 掲載は出来ないか検討す

る。

CA 研究会メーリングリストおよび WEB :

メーリングリスト : CA@eri.u-tokyo.ac.jp

URL : <http://www.conductivity-anomaly-jp.blogspot.org/CAnews/>

アウトリーチ部会活動報告

○衛星設計コンテスト

SGEPSS が主催する第 17 回衛星設計コンテスト最終審査会が昨年 11 月 1 日に一橋記念講堂で開催されました。この審査会には一次合格の 7 件の学生がプレゼンテーションに臨みました。その結果、地球電磁気・地球惑星圏学会賞には、首都大学東京チームの「太陽偏光分光観測衛星 FLARE」が受賞しました。このテーマは太陽フレアの観測を主ミッションとしたもので、唯一の科学観測テーマでした。しかも対象が天文学との共通分野であるということもあり天文学賞とダブル受賞となりました。審査には遠山文雄会員、コンテストの運営には中田裕之会員にご協力頂いています。

また、第 18 回衛星設計コンテストの参加登録受付が始まっています（締切：5 月 28 日）。本コンテストの対象者は全国の大学院、大学及び高等専門学校の学生及び高等学校の生徒です。興味をお持ちの方は、コンテストの Web ページをご覧ください。

URL:<http://www.jsforum.or.jp/event/contest/>

○平成 22 年度秋学会アウトリーチイベント

今度の秋学会アウトリーチイベントは学会前日の 10 月 30 日（土）に久茂地公民館にて開催の予定です。詳細については、追ってお知らせ致しますが、ご興味のある方、ご協力頂ける方はアウトリーチ部会までご連絡下さい。

(長妻 努)

国際学術交流事業補助金受領の報告

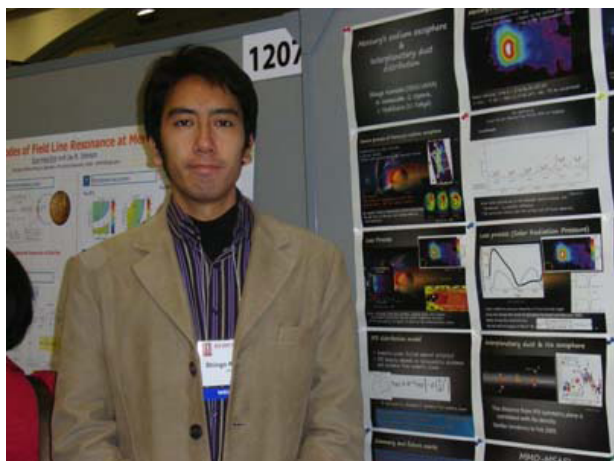
亀田真吾

国際学術交流事業の援助を頂き、2009 年 12 月 14 日から 18 日までアメリカ・サンフランシ

スコで開催された AGU Fall meeting に参加してきました。今回、私は Messenger' s Third Flyby of Mercury I というポスターセッションで水星ナトリウム大気の生成過程に関する研究発表を行ないました。メッセンジャー探査機は 2009 年 9 月 29 日に 3 回目の水星フライバイを終えました。口頭発表セッションではこれまでに行なわれた 3 回のフライバイ観測の結果に関する研究発表が行なわれ、ポスターセッションでは大気光の地上観測結果、フライバイによる観測結果に関するシミュレーション、BepiColombo 搭載機器開発報告などが行なわれていました。3 回目のフライバイでは最接近時の 7 分前に衛星がセーフホールドモードに入り、観測停止となってしまうりましたが、磁気圏や大気光の観測データはある程度取得できていました。私が発表した研究内容は、地上で観測できるナトリウム大気の密度の時間変動から大気生成過程を推測するものでしたが、メッセンジャー探査機では地上では観測が困難であるカルシウム、マグネシウムといった成分の観測に成功しています。これまでに行なわれた地上観測によりナトリウムは夕方側より朝方側に多い傾向があるという結果が示されています。これは朝方側の日照により地表温度が急激に上昇するため地表から物質が熱脱離によって放出されることが原因と考えられていましたが、メッセンジャー探査機の観測結果ではナトリウムは朝夕でほぼ対称であり、より揮発性の低いカルシウムが朝側に多いという結果が得られており、この理由はまだ良く分かっていません。メッセンジャー探査機は 2011 年 3 月に水星周回軌道に入る予定であり、継続的な観測の結果が楽しみです。

今回は惑星セッションに居座り続けて研究発表を聞きました。特に火星については水曜日以外毎日口頭セッションが開かれており研究者数の多さを実感しました。一方で、私の発表時間と重なっていない時間帯に開かれている火星の口頭セッションには全て参加したのですが、日本の研究者の発表は 1 つもありませんでした（水星もですが）。また、最終日の将来計画に関するセッションでは数多くの探査ミッションが紹介されており、実現性に疑問が残るものもありましたが、その数と多様性には圧倒されてしまいました。今後は魅力的な計画を自ら発案できるよう努力していきたいと思えます。その他にも、

1時間ずつの3つの特別講義など、詳細は割愛させていただきますが、多くのことを学ぶことができました。貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。



学会費納入についてのお知らせ

2010年度学会費納入の案内が届いていることかと思いますが、所定の方法によってお支払い頂きますよう、お願い申し上げます（納入期限：7月31日）。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入して頂く会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストが相当かかりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、本年度より学生会員の会員種別確認のための手続きの期日が3月末日までに変更となっております。手続きをされていない学生会員には一般会員扱いの納入案内が発行されますので至急お手続きをお願いします。

当学会の会費納入は以下の5つの方法よりお選びいただけます。

- (1) 銀行振込（校費払いも可能）
- (2) 銀行口座自動引き落とし（7月下旬に引き落とし予定）
- (3) クレジットカード払い
- (4) コンビニエンスストアでの支払い
- (5) 春・秋学会開催時の受付窓口での支払い

今年度学会費の支払い方法変更については事務局 (sgpss@pac.ne.jp) に連絡をとり5月31日までに手続きを終えてください。それ以降の

変更やMMBシステム上での変更は翌年度に反映されます。銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。支払いを忘れがちな方には、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の方は書面による手続きが必要となりますので事務局へお問合せください。詳細については納入案内をご参照ください。

平成22年度の連合大会においても、学会受付デスクに会費支払い窓口を設けます。開設予定は、5月25日（火）の午後、26日（水）の全日、および27日（水）の全日（ただし最終日は16時頃まで）です。

（会計担当運営委員：阿部琢美・村田功）

国際学術研究集会等への補助について

国際学術交流事業運用規定に基づき、「国際学術研究集会等、広く国際学術交流の推進に役立つ事業への補助」を募集いたします。対象は、平成23年3月末までに開催予定の事業です。応募者は、研究集会等の名称・日程・場所・目的・予想参加人数、補助を希望する理由・希望額とその使途、について示した書類（書式自由）を郵送あるいは電子メールでご提出ください。応募の締め切りは5月21日（必着）とします。

郵送先：〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学
生存圏研究所 山本衛（運営委員総務）
電子メール宛先：yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp
（山本 衛）

学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦／問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月28日
田中館賞	会長	8月31日
学会特別表彰	会長	2月28日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月31日
学生発表賞	推薦なし／問合せは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会総務	平成22年度はまず5月14日で、 後日7月・9月・1月ごろに設定します。
国際学術交流外国人招聘	運営委員会総務	若手派遣と同じ

SGEPSS Calendar

- '10- 5-23 ~ 28 日本地球惑星科学連合大会（幕張メッセ国際会議場）
- '10- 6-20 ~ 25 2010 CEDAR Workshop (Boulder, USA)
- '10- 6-21 ~ 25 GEM Summer Workshop (Snowmass, USA)
- '10- 6-22 ~ 25 Western Pacific Geophysics Meeting (台北, 台湾)
- '10- 7- 5 ~ 9 Asia Oceania Geosciences Society (Hyderabad, India)
- '10- 7-12 ~ 16 SCOSTEP STP-12 Symposium (Berlin, Germany)
- '10- 7-18 ~ 25 COSPAR 38th scientific assembly (Bremen, Germany)
- '10- 8- 8 ~ 13 2010 The Meeting of the Americas (Foz do Iguaçu, Brazil)
- '10- 9-22 ~ 26 2010 Asia-Pacific Radio Science Conference (AP-RASC'10) (富山)
- '10-10- 4 ~ 8 5th Alfvén conference on plasma interaction with non-magnetized planets/moons and its influence on planetary evolution (札幌)
- '10-10-31 ~ 11-3 第128回SGEPSS総会・講演会（那覇）
- '10-12-13 ~ 17 2010 AGU Fall Meeting (San Francisco, USA)
- '10-12 ~ '11-1 SGEPSS 副会長・評議員・運営委員選挙

地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 津田敏隆 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所
TEL: 0774-38-3804 Fax: 0774-31-8463 E-mail: tsuda@rish.kyoto-u.ac.jp

総務 山本衛 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学生存圏研究所
TEL: 0774-38-3814 Fax: 0774-31-8463 E-mail: yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp

広報 吉川一朗 (会報担当) 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学
大学院理学系研究科地球惑星科学専攻
TEL: 03-5841-4577 FAX: 03-5841-4577 E-mail: yoshikawa@eps.s.u-tokyo.ac.jp

河野英昭 (会報担当) 〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学
大学院理学研究院地球惑星科学部門
TEL: 092-642-2671 FAX: 092-642-2684 E-mail: hkawano@geo.kyushu-u.ac.jp

村田功 (会報担当) 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学
大学院理学研究科地球物理学専攻
TEL: 022-795-5776 FAX: 022-795-5775 E-mail: murata@pat.gp.tohoku.ac.jp

運営委員会 (事務局) 〒650-0033 神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10階
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: sgepss@pac.ne.jp

賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

エコー計測器（株）

〒182-0025

東京都調布市多摩川 1-28-7

tel. 042-481-1311

fax. 042-481-1314

URL <http://www.clock.co.jp/>

日鉄鉱コンサルタント（株）

〒108-0014

東京都港区芝 4 丁目 2-3NOF 芝ビル 5F

tel. 03-6414-2766

fax. 03-6414-2772

URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

クローバテック（株）

〒180-0006

東京都武蔵野市中町 3-1-5

tel. 0422-37-2477

fax. 0422-37-2478

URL <http://www.clovertech.co.jp/>

日本電気（株）宇宙システム事業部

〒183-8501

東京都府中市日新町 1-10

tel. 042-333-3933

fax. 042-333-3949

URL <http://www.nec.co.jp/solution/space/>

(有) テラ学術図書出版

〒158-0083

東京都世田谷区奥沢 5-27-19

三青自由ヶ丘ハイム 2003

tel. 03-3718-7500

fax. 03-3718-4406

URL <http://www.terrapub.co.jp/>

富士通（株）

〒261-8588

千葉市美浜区中瀬 1-9-3

富士通（株）幕張システムラボラトリ

tel. 043-299-3246

fax. 043-299-3211

URL <http://jp.fujitsu.com/>

(有) テラテクニカ

〒206-0812

東京都稲城市矢野口 2 番地

tel. 042-379-2131

fax. 042-370-7100

URL <http://www.tierra.co.jp/>

丸文（株）システム営業本部

営業第一部計測機器課

〒103-8577

東京都中央区日本橋大伝馬町 8-1

tel. 03-3639-9881

fax. 03-5644-7627

URL <http://www.marubun.co.jp/>

明星電気（株）装置開発部

〒372-8585

群馬県伊勢崎市長沼町 2223

tel. 0270-32-1113

fax. 0270-32-0988

URL <http://www.meisei.co.jp/>